目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第４７号　2010年 6月　発行人：八幡和三郎　編集長：服部 尚彦　事務局長：吉田 博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

2010年定時総会開催のご案内

目黒稲門会第11回定時総会を下記の通り開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席賜ります様お願い申し上げます。

本総会は、2月にご逝去されました故八幡和三郎会長を引継ぐ第4代会長を選出する重要な総会となります。開催会場を、これまで利用して来ました「こまばエミナース」の閉館に伴い「目黒雅叙園」に変更をしての開催となります。また、今年は早稲田大学校友会設立125周年の年に当たり、10月17日の稲門祭は125周年記念大会として盛大に催される年でもあります。

その記念ロゴを掲げて事前の盛り上がりを図った総会になります。

なお、総会は例年の通り、前年度の事業報告、決算及び監査報告、役員の改選と新役員の選出、平成22年度事業計画と予算案の審議に加えて、前述の新会長選出の重要案件が予定されています。

総会に続いて恒例の懇親会が行われます。新会場での飲み物と食事の美味しさと団欒に望みをかけ、懇親会が一層盛り上がる様期待しております。

なお、総会へはクールビズの軽装でご参加下さいます様お願い申し上げます。

記

1）日時：2010年7月11日（日）
　受付開始　15時30分
　総会　16時～17時
　懇親会　17時～19時

2）会場：目黒雅叙園　華つどいの間
　目黒区下目黒　1-8-1
　電話　03-3491-4111　（代）

3）交通：ＪＲ山手線、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線など目黒駅下車、権之助坂・行人坂を下る　徒歩5分
　東急バス、権之助坂・日の出学園前下車、徒歩5分

4）会費：会員8,000円、同伴家族5,000円
　当日会場受付にてお支払い下さい。
　当日キャンセルの方は、予約の都合で会費の御負担をお願いします。

5）送迎：会場への送迎バス運行はありません。

6）出欠：会報に同封のハガキにて、6月20日までにご連絡下さい。

島田　記

八幡会長を偲ぶ

『八幡和三郎氏の死を悼む』

八幡さんのお通夜から、早くも3ヵ月が過ぎた。そして今日、春の六大学野球もシーズンを迎えた。八幡さんは2008年6月、目黒稲門会の会長に就任された。　故人の人格識見にかねがね尊敬の念を抱いていた小生は八幡氏を推挙委員会に諮った。

八幡さんは固辞されたが、委員会のメンバーも満場一致で八幡さんを飲み屋に拉致して就任の応諾を迫った。　飲酒は体質的に合わない故人に「酒の会」は小生が代行するから、何としても応諾を！と迫った。ある先輩相談役は会長推挙を拒否するなら目黒稲門会から除名する！とまで発言された。

故人は芯からの人格者であった。　また野球が御好きで、斎藤祐樹投手が早稲田大学に入学して神宮球場に姿を現した時から、小生は昨年まで、いつも八幡さんの隣の席で、いろいろと話を聞かせて頂いた。　特に早稲田が負けたりすると、八幡さんはまるで自分の責任のように、あの大きな体を小さくして「済みません」と我々に謝られる姿が今も目に浮かぶ。

それにしても、早過ぎる突然のご逝去を悼み、遥かにご冥福をお祈りします。　合掌

相談役・前会長　加藤榮護

『ビックリした。驚いた』

ビックリした。驚いた。あんなに元気だった八幡会長が・・・、八幡さんの想いでは沢山あるが、ダンス部会（平成11年10月発足）が始まって間もない平成12年夏過ぎての頃、樋口さん三上吾朗って知っているって聞くからイヤーと云ったら、早稲田大学野球部の大先輩でアメリカプロの、日本人第1号だよと云って調べたら自由ケ丘に居たよ！　桑野さんだよと言った（桑野さんの奥様が三上吾朗大先輩の次女の順子様）あの長崎出身の桑野さん？小生は（福岡出身）当時事務局を担当して居たので聞くと、そうだよと言った事等想い出した。八幡家は龍馬傳に出てくる水沢藩の上士で世が世であれば小生なんか八幡さんに逢えばへーへーだったんだね—と二人で大笑いしたことが今は想い出となって仕舞った。岩手中尊寺など旅行部会で2回程行ったが、八幡家に立ち寄り三上吾朗氏の手紙を見せて貰った事など懐かしい。ダンス部会は、男性のリードが下手な為女性群が辞めてゆき現在中止の侭なり。八幡さん・桑野さんに佐山和夫氏出演を依頼し、平成13年1月の新年懇親会にてジャップ・ミカドこと三上吾朗大先輩（山梨県甲府中学・千野逸平氏、現甲府一高・土川俊雄氏）のノンフィクション作家佐山和夫氏の講演に感動したこと。又美術・歴史鑑賞部会の部会長として「生麦事件・薩英戦争」を真仁田会長・高橋栄一氏;（月刊東京人編集長）を講師に迎え、小生を勉強させて下さった事など想い出して、なんで八幡会長が・・・と残念でなりません。想い出はまだまだ有りますが、八幡さんと遊び学んだ日々を偲び筆を執りました。　　相談役　樋口定廣

『同郷の誼（よし）み』

また一人、かけ替えない友人を失ってしまった。氏からある時手渡された一片の紙に「山を去ること遠く、邯鄲（かんたん）の声今猶（なお）耳に在（あ）り」とあり。　お互いに幼い日日山野を駆け巡って遊んだころを思い出して、望郷の念ひとしきり、談笑にうち過ぎた一刻であった。氏も私も岩手県水沢市の出身同郷の間柄である。氏は洞察力と判断力に優れ、その上寛容でもあった。目黒稲門会ではアマチュア囲碁六段、その他多くの部会に関与、短歌も善くされた。

西行の足跡（あしあと）とどめしや平泉
北上川に東稲山（たばしね）の映ゆ　　和三郎

氏の詠まれた一首を添えて　———　合掌

相談役　阿部喜久雄

『八幡会長追悼句』

雪の精南部の偉丈夫つれ去りぬ

俳句部会長　佐藤喜仙

『八幡会長を偲ぶ』

八幡会長から、11月末に、顎にしこりがあるので、検査入院しますと、電話を頂いてから、あっと思う間に、お亡くなりになった。

人間の命のはかないものと、つくづく思います。まことに残念無念です。鬼平犯科帳を書かれた、池波正太郎が、作品の中で、「人間が生まれた時に、一つだけ決まっていることがある。いつか、かならず死を迎えることである。」分かっていますが、別れは悲しい。師走の15日午後1時、自由が丘ロータリー改札口でお会いする約束になっていたが、永遠に其の日は来ない。まもなく、八幡会長の大好きな六大学野球が幕を開けるが、バックネット裏正面のいつもの席には、その姿はもう見られない。天国から早稲田の優勝を見守って欲しい。目黒稲門会も仲間を増やし、親睦をはかり、ますます発展していくことを見守って下さい。

合掌　　幹事長　浅海敏之

『八幡会長追悼』

国立西洋美術館「コロー・光と追想の変奏曲」展の鑑賞中、八幡会長から“美術鑑賞の楽しみを”お聞かせいただいた。緊張していた私は、自分自身で何を話したかは覚えていません。そのご縁かも知れませんが数カ月後に美歴部会を受け継ぐことになりました。

整理された数多くの資料だけでなく、企画実施の度に、舌足らずの私の説明をフォローしていただいたこと、数多くのご指導に感謝の気持ちで一杯です。

これから満足いただける企画を立てなくてはと思っていた矢先だけに残念のひと言です。

美術・歴史鑑賞部会長　後藤克彦

北上川と若き日の八幡会長

『追悼文の掲載にあたって』

去る2月6日祈り空しく他界され、それはあまりにも早すぎたお別れでした。ここに故八幡和三郎会長を偲び、前会長はじめ関係者に追悼文をお願い致しました。目黒稲門会の先頭に立って、何事にも真摯で真剣に取組まれ、我々を牽引していただいた故八幡会長の思い出となることを願います。改めてご冥福をお祈り申し上げます。　　広報編集委員会

各部会からの案内・報告

囲碁部会

第一回全国オール早稲田ネット囲碁祭開催ご案内

2010年に校友会発足125年を迎え、今般記念事業として以下の要領により開催される予定です。

1. 目的　　囲碁を通じて全国校友の活性化を計る
2. 主催　　校友会事業委員会
3. 大会要領
   1) クラス別大会　無差別、ハンデ戦A・B・C
   2) 場所　パンダネットの早稲田ネットワーク部屋
   3) 日程　2010年9月より毎週末を利用して対局
      決勝戦は稲門祭当日とする
   4) 参加者数　特に定員は設定せず、応募状況によりクラス別けを行う
   5) 参加費　　無料（パンダネットの会費費用別途必要、月会費2,100円、年間割引23,100円）

囲碁部会長　保井　正

ウォーキング部会

第35回は3月12日に「日本一の梅の里・吉野梅郷を歩く」のコースを、青梅の梅の公園から皇室衣装・時代衣装などを展示している青梅きもの博物館、吉野梅園のオープンガーデン、即清寺、「宮本武蔵」や「新平家物語」で有名な吉川英治の記念館などを14名で巡り歩きました。

第36回は4月3日に13名で秦野高原にソメイヨシノを求めて、今泉名水桜公園からスタートし、急坂挑戦組は浅間山、権現山から弘法山へ、バス組は弘法山へ直行のルートをとり真盛りの多くの桜を満喫しました。　――花のうみ天にひろがり人満つる――

＜今後の活動予定＞

第37回　5月25日（火）

―川崎生田緑地に533種4,700株のバラを求めて―

小田急線向ヶ丘遊園駅（午後1時集合）―生田緑地北口―日本民家園（25棟の文化財建造物）―岡本太郎美術館（希望者）―ばら苑―向ヶ丘遊園駅―時間によりバス―宮前区等覚院（つつじ100株）―梶ヶ谷駅

第38回　6月16日（水）

―初夏の長谷・七里ヶ浜での写経・紫陽花と腰越での夕宴の一日―

江ノ電長谷駅（午前10時30分集合）―長谷寺（弁天堂にて写経・2時間前後）―昼食―光則寺―高徳院（鎌倉大仏）―成就院―＜フリーウォーキング：極楽寺・七里ヶ浜・江の島・新江の島水族館など＞―腰越駅（17時集合）―腰越港口にて朝獲り鮮魚で夕宴―帰路

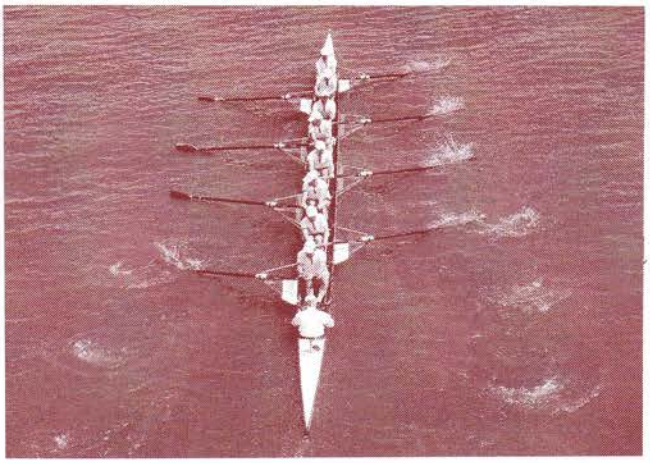
ウォーキング部会長　桑野祐光

グルメ部会

晴天のもと4月18日（日）、目黒稲門会の井村副会長がキャプテンとして乗艇された早慶レガッタOB戦を隅田川桜橋の上から応援し、長命寺等に立ち寄りながら隅田川沿いをうなぎ料理で有名な駒形橋近くの前川まで散策しました。 前川は200年以上続いている老舗で、国産天然うなぎの各種料理を堪能しました。隅田川が真下に見渡せる絶好なロケーションの個室ですが、引き続き行われていた各種レガッタ観戦よりも、ひたすら美味しいお酒とお料理と楽しい歓談に終始しました。（参加者26名）

グルメ部会では8月にビアパーティを予定しています。別途目黒稲門会ホームページ（HP）でご案内しますが、HPをご覧になれない方は7月中旬ごろに事務局にお問い合わせ下さい。

グルメ部会長　海沼美智子



ゴルフ部会

4月23日に第26回ゴルフ部会を茨城県のセントラルゴルフクラブに於いて開催しました。

今回の参加者は30名。生憎の肌寒い曇り空の天候でしたが、過去数々のプロアマの公式戦が開かれた名門コースに果敢に挑戦しました。

優勝は木村昭一氏、2位は村上　柾氏、3位は島田久家氏でした。毎回上位入賞者の顔ぶれが変わるのもこの大会の楽しいところです。次回は10月です。

大勢の会員皆さまの参加をお願いいたします。

最後に中国の古諺より『1時間だけ幸せになりたかったら、酒を飲みなさい。』『3日だけ幸せになりたかったら、結婚しなさい。』『もし永遠に幸せになりたかったら、ゴルフに溺れなさい』

ゴルフ部会長　大野利幸

カラオケ部会

新年度第1回（第98回）を4月9日開催致しました。参加者10名と低調な滑り出しと成りましたが数名が過去最高7曲をリクエスト、回転の速さに辟易、ノドの調整のため間隔時間が欲しいと・・・

今回参加者が少ないので前に戻り調べた結果例年4月の参加者が年を通して一番少ない事が分かりました。なぜかしら？　桜？　お祝い事？

6月11日（第二金曜日）　第100回

愈愈カラオケ部会も100回の大台を目の前に。

歌を大いに発揮しましょう。

時節の歌等、取り混ぜて歌ってみましょう。

自分の調子はずれの歌（勉強のために歌おう）

カラオケ部会長　海口昭治

俳句部会

「萩句会」は下記のとおり、予定通りに開催いたしました。　また、前号でご案内致しました「第二回俳句教室」も3名の参加者を得、萩句会と同日の午前10時から12時までの2時間開催致しました。

** 第16回「萩句会」報告　　（順不同）

日時　　4月16日（金）14時～17時

場所　　下目黒住区センター会議室

安藤虎雄	長命寺風心地よく桜餅
川井素山	夜桜の明暗確か燈明かり
紀本直幸	花冷えや命長きを楽しみぬ
保井寶正	ゆつたりと古刹巡りて春惜しむ
米田文彦	胡坐かき川原に春を惜しみけり
佐藤喜仙	拝すれば仏の慈眼春惜しむ

俳句部会長　　佐藤喜孝

麻雀部会

1.　定例麻雀大会

2月12日(日)、武蔵小山の麻雀「サン」に於いて本年初めての第40回麻雀大会が12名の参加により開催されました。和気藹々の競技の結果、本田氏が優勝、準優勝は植村氏、三位は中村氏でした。

2.　3区連合親善麻雀大会

4月10日(土)渋谷の麻雀クラブ　スリーハンドレッドで第26回2区（世田谷、目黒）麻雀大会が世田谷稲門会主催により開催されました。20名参加による親睦を深めた競技の結果、優勝は小池氏(目黒)、準優勝は吉川氏（目黒）、三位は橋本氏（世田谷）でした。従来の3区の内渋谷が脱会しました。

3.　今後の予定

6月20日（日）　第41回定例麻雀大会

8月28日（土）　第27回3区親善麻雀大会
（大田稲門会参加予定）

10月23日（土）　第28回3区親善麻雀大会

12月12日（日）　第42回定例麻雀大会

を開催予定しております。皆様奮ってご参加下さい。

麻雀部会長　鵜野洋治

美術・歴史鑑賞部会

4月14日に丸の内にある三菱一号館美術館・開館記念展「“マネとモダン・パリ”近代絵画の創立者マネの全貌」　数多くのマネの作品を鑑賞いたしました。天気も良く、14名の参加で、昼食は美術館裏のブリックスクエアにある中華料理“青菜”でした。久しぶりにオフィス街でのランチタイムを楽しめました。

6月6日～7日は旅行部会との共同企画としての「会津を訪ねる旅」。その後の予定として、国立新美術館“オルセー美術館展2010「ポスト印象派」”を鑑賞。モネ、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン、ルソーの傑作絵画115点。招待券（20枚）もすでに入手いたしました。7月中旬までに実施。皆様のご参加をお待ちいたします。

美術・歴史鑑賞部会長　後藤克彦

旅行部会、美術歴史鑑賞部会(共同企画)

『会津を訪ねる旅へのお誘い』

(戊辰の役の跡を辿る白河の関、猪苗代、会津若松、大内宿を巡る旅)

平成22年春の旅行は「会津と戊辰の役」をテーマに白河市と会津若松市を巡る旅を美術・歴史鑑賞部会との共同で企画いたしました。会津藩と戊辰戦争の跡を巡るとともに儚くも散った白虎隊や新撰組との関わりの地を訪ねます。

白河市を訪ね「戊辰の役・白河口の戦い」の跡を見ます。猪苗代湖畔に有栖川宮威仁親王殿下の建てられた「天鏡閣」を見学し、会津若松市に入ります。鶴ヶ城見学の後に東山温泉の名旅館「原瀧」に宿泊します。2日目には飯盛山と白虎隊記念館を訪ねます。その後、江戸時代の宿場を今に残す「大内宿」を見学します。

梅雨にはちょっと間のある6月上旬の新緑に映える会津連峰を見ながらの会津と郷土料理を楽しむ旅行に多数の方のご参加をお待ちいたします。

記

1. 旅行日 ：平成22年6月6日（日）～7日（月）
2. 行　程 ：

（1日目） 目黒駅（7時半）～東北自動車道～白河市（戊辰の役最大の激戦地　白河口戦場跡、小峰城等をボランティアガイドにより見学）～猪苗代湖畔へ（天鏡閣と野口英世生家）～会津若松市（鶴ヶ城を見学）～東山温泉へ　時間が許せば会津いにしえ夢街道の散策を、宿泊「原瀧」

（2日目） 朝食後（8時半）～飯盛山と白虎隊記念館の見学～会津西街道「大内宿」見学と昼食～白河ICより東北自動車道に乗り帰京の途へ～目黒駅解散（19時頃）～目黒通りを南下し自由が丘まで。

3. 旅行費用 ：39,000円/名を予定
（二人部屋希望は3,500円/名アップ）
4. 募　集 ：30名　定員になり次第締め切り

旅行部会長　井村正陽
美術・歴史鑑賞部会長　後藤克彦

リレー随筆

『縁』

笠谷興一朗（平成18年　文）

本会会長の八幡さんが旅立った。私が目黒稲門会に入ったきっかけは、八幡さんに宛てた一通の手紙だった。あまり言葉を交わす機会もなかったが、その柔和な人柄は印象に残っている。思えば人の縁とは不思議なものである。世の中すべて人のつながり、人の縁で成り立っているのは今も昔も変わらない。古典を紐解けばこんなのがある。

「或は一國に生れ、或は一郡に住み、或は一県に処り、或は一村に処り、一樹の下に宿り、一河の流れを汲み、一夜の同宿、一日の夫婦、一所の聴聞、暫時の同道、半時の戯笑、一言の会釈、一坐の飲酒、同杯同酒、一時の同車同畳同坐、同床一臥、軽重異るあるも、親疏別有るも、皆是れ先世の結縁なり」

これは聖徳太子の『説法明眼論』で、要するに縁は大事というようなことが書いてある。最近だと、「縁というのは大変なものだ、この縁を大切にしなきゃいかんよ」と陽明学者・安岡正篤氏の言葉もある。この頃、その〝縁〟の摩訶不思議を実感する。そう、縁というのは大変なものだ。

過日、事務局長の吉田さんと酒席で尽きない議論をした。吉田さんは、稲門会とは何だろうね、たった4年間、時代は違えど同じ場所で学んだというだけでこうして酌み交わす仲になれるとは不思議だね、というようなことを言った。うーむ、確かに。我々にとって〝早稲田〟とは何だろう。校歌にある「われらが日ごろの抱負」だの「久遠の理想」だのは壮大過ぎてつかみどころがない。そもそも校歌を歌う時はたいてい酒が入っているから、意味など考えたことがなかった。

最近、私は思う。つまるところ〝早稲田〟なんてのはただの言葉にすぎない。肝心なところはすべて、これまでの128年間、先輩達が背中でみせてきたのである。いささか大袈裟だが、その等身大の人間的な生き様のひとつひとつが〝早稲田〟のイメージになった。たとえば学を志す人にとって、東大が「垂直の権威」だとすれば、早稲田は庶民的な「平行の権威」だといえる。大隈侯もその辺りを意識して創ったと思うが、早稲田の先輩は気さくで容赦なく、初対面でもべらんめえ調で話しかけてきてくれる（失礼）。有難い存在である。そうした人が人を育て、縁につながる。本当に早稲田で学ぶのは在学中ではなく、卒業してからなのかもしれない。

早稲田の力は縁である。人脈などという無機質なものではない。縁である。縁とは少なからず自分の在り方に影響するものだ。この先、自分が何者になるか知れたものではないが、私は先人にならって等身大の人間でなくてはならぬ。早稲田人は何処に行っても張子の虎であってはならぬ、のである。それが大隈侯の言う模範国民たるものだろう。勝手にそう決めている。

特別寄稿

『学徒勤労動員 最後の三日間』

外岡　明（昭和26年 理工）

昭和20（1945）年8月14日の夜、私は東京駅発 東海道線下り夜行列車三等車の一角に座っていた。
心の高まりと不安を抱えながら…。

8月6日 学校から勤労動員先が通達され、「原則として8月15日に同地に各人集合せよ。」との内容で、その行先は、愛知県の知多半島 常滑にある海軍管轄の軍需工場であった。

雑踏するプラットホームや車内には同じ高等学院の制帽を被った者がちらほら居たが、お互いに入学したばかりで、友人もまだ少なく、不安げに顔見知りのクラスメイトを眼で追っていた。

（学院の制帽は、腰部に蛇腹模様の帯を巻いた黒の丸帽で、帽章は金属性で稲穂を丸く模った中央に「高」の文字がある。）

我々が、入学したのは同年4月だが、入学式が行われたのは7月2日であった。

それは、昭和20年3月18日「決戦教育措置要綱」の閣議決定により、国民学校初等科を除く中・高・大学の授業は、4月1日より向こう一年間停止された。そして入学後も6月30日までは引き続き出身中学の指揮下で勤労動員を継続せよ。との指示が出たからである。

（当時《旧制》の学制は、小学六年、中学五年、高校三年、大学三年で、第一早稲田高等学院への入学資格は、中学五年卒業者と中学四年修了者であった。）

しかしこれに対し、我々「新入生」の対応は、夫々の事情により異なっていた。
私の様に中学の勤労動員を継続する者、動員先や中学校や自宅が空襲で焼失してしまった者、高等学院へ登校して授業を受ける者、自宅に居る者など様々な状況であった。

（前述の様に政府の決定で、4月1日から1年間、授業は停止されていたが、第一高等学院では登校可能者のみで数学・英語などの授業を積極的に行っていた。）

従って友人を作る間など無かったが、そこへいきなり高等学院から勤労動員先決定の連絡を受けたのである。

しかもその行先は、米軍の上陸が有力視される知多半島の伊勢湾に面した軍需工場であった。

8月14日の昼頃、我が家に家族と親戚の者数人が集い、ささやかな壮行会が行われた。そして母は、なけ無しの砂糖と小豆でお汁粉を作って別れの盃とした。既に兄二人が戦地に赴いており、そこへ更に末っ子の私をも送り出す両親の想いは如何ばかりであったろう。

車中の私は、結局 顔見知りのクラスメイトが見付からず、未知の世界への一人旅となったのである。

翌朝、熱田駅で降り、そこから同列車に乗り合わせた同級生らしき数人の者と行動を共にし、常滑線の榎戸にある動員先の大隈鉄工に昼前に到着した。

そして旅装を解く間もなく「重大放送があるので全員直ちに食堂に集合せよ。」とのことで訳も分からず集まり、そこで所謂「玉音放送」を聞かされたのである。 雑音がひどく、もっと頑張れと言われているのか、内容がよく聞き取れなかったが、雰囲気から戦争が終わったらしいと察しがついた。

しかもポツダム宣言を受諾した無条件降伏という形で…。 すすり泣きの声も聞こえたが、大多数は放心状態であった。

（私より後の夜行列車に乗った者は、小田原が空襲で真っ赤に燃えている中を通過し、終戦の詔勅は熱田駅で聞き、工場へは午後三時頃着いた。
また、翌朝六時の列車に乗った者は、途中 米軍のP-51戦闘機の銃撃を何度も受け、その都度 停車、発車を繰り返して熱海までに四時間もかかり、常滑線榎戸へ着いた時には日もとっぷりと暮れていた。 そして彼らは戦争が終わったことを工場に着くまで知らなかった。）

それから昼の給食となったが、それは丼に八分目ほどのすいとんであった。 それでも私は喜んだ。 米食の少ない日々の中、私は小麦粉のすいとんが好きだったからである。 汁をすすり、口に入れたすいとんをひと噛みした途端、ジャリジャリと砂を噛む様な歯ごたえで、うっーと吐き出しそうになったが、眼をつぶって呑み込んだ。そして味気の無い汁だけを全部すすり昼食は終わった。 それはドングリのすいとんであった。 一瞬、前途が暗くなったが、戦争は終ったのだ、家に帰れるのだと云う思いに助けられた。

その日から工場の作業は全く停止し、翌16日に動員は解除された。

省みれば昭和19年2月25日の閣議で「決戦非常措置要綱」が決定され、中等学校以上の学生・生徒全員が常時勤労に動員される様になって1年半、学徒勤労動員はここで終了したのである。

16日に帰宅を許されたが、未着の布団類の返送手続きや帰京列車の手配などで、なお二日ほど残留した。

工場の給食は相変わらずすいとんや茹でた大豆、冬瓜の塩茹などであった。 そこで家から持参した握り飯や自家製のパン（その頃多くの家庭では米の不足を補うため弁当箱型の木箱の両端に電極を張ったパン焼き器でパンを作っていた）などで補ったが、それらは猛暑の中で既に腐りかけていた。そして何人かの友人が持参していた少量の米を農家で炊き出してもらい飢えを凌いだ。

しかし、夜になると我々は、近くの海に素っ裸で飛び込み、解放された喜びと若さを発散した。浮遊している夜光虫が大きな波に打たれて海一面が青白い燐光を放つ様は、筆舌に尽くし難い壮観さであった。65年後の今でも鮮やかに眼に浮かぶ。

そして終戦から3日後、やっと夜行の復員列車に便乗させてもらうことが出来た。車内は復員軍人と学生とそして彼らの荷物で超満員であったが、それでも積み上げられた荷物を攀じ登り、天井に手の届く様な場所を確保することが出来た。…ほっと一息。

これから世の中がどう変わって行くのか全く見当もつかない。しかし、戦争が終わったという事実、前途に仄かな明るさを感じられる様になった事を神に感謝しつつ帰途に着いた。

了

会員の広場

『命　心臓バイパス手術』　（45号より続く）

浅海敏之（昭34年　政経）

2007年の春、ラグビー部の後輩、小林正幸氏（昭46年教育卒、平成3年監督、朝日新聞社）から、7月13日から10日間、ゴルフ発祥の地スコットランドへのゴルフツアーに参加しませんかと誘われた。セントアンドリュースオールドコースをはじめ、全英オープンを開催した名門コースで6ラウンド、全英オープン2日目を観戦、ホテルはすべて超一流、往復ビジネスで。参加メンバーはラグビーOB増山瑞比古夫妻（昭32年政経卒、（株）フジスッタフ会長）、井上成美氏（昭38年政経卒、海軍大将の孫、セントアンドリュースのメンバー）、丸山医師夫妻（東京慈恵、ラグビー協会、）、ツアーコンダクターを入れて、10名。うーん？悩んだ！！費用が高い。（当時1ポンド250円強）それに、お盆の入りから留守にするのは、ご先祖さんに怒られるなあと。子供たちと相談。メンバーも知っている方がお出でだし、なかなか、こんな話はないし、行ってきたらと。

二度と出来ないゴルフツアーを経験してきました。プロのキャディがワンバック、一緒に歩いて、まるでプロになったみたいに。いつしか自分のゴルフを見失いがちで、木々、大きな造成の池（自然の小川あり）などの障害物がないのに、日本にないブッシュ、ラフも刈ってないから膝くらいの高さ、バンカー（タコつぼもあり）も壁が90度と、近いと出ない。スコアーはいつのまにかガタガタ。ちなみに、セントアンドリュースオールドコースのスコアー、アウト47、イン50。97。

楽しかったゴルフツアーも、8月のハワイも終わった10月、久しぶりに、心電図、血液検査のため、主治医の石川先生のところに。「浅海さん、今まで（平成5年以来）とった心電図と違った波が出ているので、次回の東邦病院の診察日に心電図をとってもらってください」と、いわれた。11月、東邦病院でも同じように、異常の波が出たようで、暮れの押し詰まった28日、心臓のCTを撮った。2008年1月の診察日、素人の僕にも分かるように、心臓の血管は詰まっていた。主治医の中村先生も早速カテーテルの検査の日（2月17、18日一泊二日）となり入院、検査を受けた。結果は心臓の冠動脈3本のところに4ヶ所つまっていることが分かった。その一本は90パーセントつまっていて、良く苦しくなかったですねと。もし、スコットランドやハワイで倒れていたら、と思うとぞっとしました。

後日、中村先生から、心臓血管外科部長、尾崎重之先生（所沢防衛医科大、最近分かったことですが、世界の名医5人の中に入る）と相談されて、3ヶ所はバイパス手術、1ヶ所はカテーテルの内科的手術する事に決まりましたと。尾崎先生を紹介され、2月28日子供たち3人と共に先生を訪ねた。浅海さんの場合は、バイパスが一番いいと思います。右利きですか。左利きですか。・・右利きです。それでは、左の腕（肘から手首）の血管を1本、左の足（膝から足首）の血管を1本、体内に使っていない血管があるので、それを1本、全部で3本使います。手術中に出血する場合があるので、輸血用に自己血がいいので、3月10、24日に400ccづつ血液をとり800CC確保しておきます。血液の有効期間が33日なので、3月31日入院、4月7日手術、順調な経過をたどれば、2週間後、退院予定です。29日この決定を石川先生に報告に。先生は尾崎先生の実績を調べて下さっていて、経験豊かで安心してまかせられるから、心配はいらないと。また、心電図をとってみると、「浅海さん、今までの波に戻っているよ。エッ？10月にこれだったら、見つけることが出来なかった。あの時、異常が見つかって、良かったんだと。何故、元に戻ったんだろう、不思議だなあ。ラグビーの先輩に小山俊次氏（昭33年商卒、NHK相撲担当）も、何年か前にバイパスをされているので、話しを伺った。浅海大丈夫。心配ないよ。麻酔が覚めると、ものすごく、喉がかわいて、水をたのんだが、水はだめですと言われ、湿らせたガーゼを口の中にいれてくれたが、喉の渇きは苦しかった。目が覚めたら痛くて、看護婦さんに言ったら、また麻酔をしてくれて、気がついたら、何日もたっていて、痛くなくなっていたよ。本当ですか？本当だよ。それを聞いて、すっかり安心した。いっぺんに手術に対する不安、ストレスがなくなり、ぐっすり熟睡出来るようになった。

3月31日、春雨の降る中、午後に東邦病院に入院した。毎日検査。胸部レントゲン、エコー、CT。頭部CT。手足の血管エコー。胃カメラまで。麻酔の先生から、多少の危険ありの説明。尾崎先生からも、動脈をとるため、手足の状態は悪くなる（シビレ、ムクミなど）。また、危険も1,2パーセントともないますと。しかし、糖尿も、腎臓も肝臓も、しっかりしているので、大丈夫、頑張って下さいと。

4月7日朝8時、子供たちに、頑張ってと、声をかけられ、手術室へ。名前と生年月日を口にしているうちに・・・・・・。浅海さーん、終わりましたよー。意識が戻った。どの位たったのか。子供たちの顔、顔、顔。うまくいったって！良かった。3時ごろ、尾崎先生から、綺麗に出来ました。心配ありません。麻酔がきれたら、中にお入りくださいと。

子供たちは今か、今か、と、待っていたけど、何の連絡もないので、麻酔がきれないのか、まずいなあと思い、今度はそっちが心配になり、何度も、石川先生に電話はしちゃったと。今何時？午後の8時10分か。12時間かかったんだ。ずうっといてくれたんだ。有難う。お疲れ様。どこかで美味しいものでも食べて。ICU（集中治療室）には8日の午前中まで。午後からは病棟のCCUに移動。やはり、喉はもうれつに渇いた。何度も氷の塊を口の中にいれてくれた。麻酔がきれて、胸、手足がずきずきと痛みだし麻酔をお願いしますと頼んだ。ここの病院では麻酔は手術の時だけです。治りが遅くなるので。痛み止めを睡眠導入剤と一緒に出しますから、寝る前に飲んでください。あれはウソだったか。やられたー。でも、あの話を聞いたから、手術に対して不安がなくなったわけで、感謝しないといけないんだと思った。

手術後3日目まだ、その痛みがある体でリハビリが始まった。看護婦さんの肩を借りて、起こしてもらい、肩に手を掛けて午前100M,午後100Mをびっこをひきながら、歩いた。おそろしいもので、次の日は、看護婦さんの肩を借りずに、一人で歩けるようになっていたので、びっくりした。寝返りが出来ないため、腰が痛くて、夜も眠れない日が。また、どういうわけか、セキがやたらと出る。セキとクシャミは、痛いのなんの、これにはまいりました。

（次号に続く）

校友会便り

『校友会設立125周年ー稲門祭記念品発売』

10月17日（日）の稲門祭は早稲田大学校友会設立125周年記念を兼ねて開催致します。設立125周年に相応しい稲門祭にしたいと企画しています。

この記念品売上げの利益は全額「早稲田祭奨学金」として、在学生支援のために運用されます。

本会報47号に、稲門祭の案内・記念品販売のチラシ及び申込用紙を同封致しました。内容をご覧いただき、昨年を上回る実績が達成出来ますように、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

なお、去る3月14日の23区支部大会には、300名を越す参加者に本会からも10名が参加され、循環器先端技術講演含む意義ある大会が開催されました。

23区担当幹事　大竹一子

事務局便り

『目黒稲門会　新年度スタート』

今年は桜が開花してから寒い日が続き、花見が何回も出来ました。桜の花は満開になっていない若い時期に強風に吹かれても散ることの無い強い体力を持っているそうです。4月2日の台風並みの強風に見事耐えて素晴らしい満開を迎えました。感動ものですネ。
2月に現職の八幡会長が逝去されるという不幸に遭遇致しましたが、悲しみを乗り越えて、故八幡会長のご遺志も踏まえ、更なる発展に向い頑張って行きたいと存じます。

本年度の会費は、既に4月末迄に、皆様のお手元へ目黒稲門会の会費振替用紙を送付致しました。会費は本会活動の源です。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

総会は7月11日（日）に決定致しました。会場をこまばエミナースから目黒雅叙園に変更して開催致します。第4代会長を選出する大切な総会になります。多くの会員、ご家族の皆様に新しい会長の誕生を見届けて頂きたく、万障繰合わせの上お誘い合わせてご出席を賜りますようお願い申し上げます。

『会長推挙委員会の開催』

現職の会長が病で逝去されるという過去にない不幸に遭遇しました。会員の皆様から次期会長はどうなるのだというご質問も頂戴しています。本会の会長は、目黒稲門会会則、及び会長推挙委員会規定の内規に則り推挙され、第11回定時総会に諮り承認決定される予定です。なお、会長推挙委員会委員は、阿部喜久雄、加藤榮護、外岡　明、樋口定廣、眞仁田　勉、渡邉三郎の各相談役、浅海敏之会長推挙委員会委員長、吉田博行事務局長　以上8名です。

事務局長　吉田博行

新入会員

佐久間　喬　氏　　（昭和44年　商）
（駒場在住）
趣味：山歩き、ゴルフ、スキー、
日新海上保険（株）勤務
卒業後現社に入社、各地を転勤後本社に戻り、昨年から週3日勤務となり、余暇が出来た。予てから参加したかった本会に入会させて頂きました。皆様宜しくお願い致します。

安藤　孝　氏　　（昭和46年　商）
（目黒本町在住）
趣味：街歩き
出身サークル、ゼミ：広告研究会、社会学寿里ゼミ

各部会からの案内・報告

よん月会

目黒稲門会員、誰もが参加でき、気軽に飲み語り合う「よん月会」。いわば、同窓で作る都会的地域の会でもあるのです。毎月第四月曜午後6時より8時まで、「あっぱれ」都立大学店にて4,000円で飲み＆食い放題。楽しい話題もポンポン飛び出します。

入会を考えている方、入会したけれどお仲間をお探しの方、飛び入り大歓迎！是非、足を運んで、お試し下さい。

よん月会幹事　土川俊雄（代行　井村正陽）

若木会

2010年の第一弾は、先輩方にもご参加頂く「心の若木会」です。現在日程調整・企画中ですので、決定次第HP・メールにてご案内します。

日時　：　6月頃
場所　：　品川駅周辺ビル内驚きの遊戯施設と「つばめグリル」を予定

この他、花見などサプライズ企画も随時御案内致す計画でおります。　　若木会幹事　石川智子

ＨＰ便り

稲門会ホームページ（HP）には部会の紹介や活動記録も掲載されています。本会報にもそれらの欄がありますが、HPには紙面の制約が無いため写真等も豊富で速報性も重視しています。『目黒稲門会』で検索して、是非ご覧下さい。　　小杉　記

編集後記

世は常に同じからず、時は暦年で区切りを付けてはいるが、現実は流れの様に止め処なく刻々と過ぎてゆくものだと時々改めて思い知らされる。

この流れの中で、目黒稲門会が会員皆の有意義で、楽しい場となる為に、会報もその一翼を担いたいものだと思っている。　　服部　記